

種まき

2020
11
November

[発行]いのちのことば社 〒164-0001 東京都中野区中野2-1-5 2020年10月1日発行 通巻第669号

福音を伝える
私の一歩
いっほ



志を立てさせてくださる方 伊東道夫 JECA 花の木キリスト教会牧師

私が初めてキリスト教に接したのは、1964年5月に、古田吉光牧師とTEAMの宣教師であったドナルド・ウォルター宣教師との協力によって、辻堂東海岸で教会の開拓が始まった時でした。

当時、私は心の病を患い、家に閉じこもるような生活をしていました。そんな時、民家を借りて、数人の方たちが集まっている開拓教会に導かれ、何回か通ううちに、神と人に対して自己中心的に歩んできた自らの罪に気づかされました。

家に帰ってからも、そんな私のために、十字架で身代わりに死なれたキリストの愛が頭から離れず、思い出せる限りの罪を悔い改め、涙ながらにイエス・キリストを信じる信仰に導かれました。それまでは、自らの罪のために、何のために生きるのかも、死んだらどうなるかもわからない者でしたが、生きる目的を与えられ、心にはことばで言い表すことのできない平安と感謝が与えられ、新しく人生を歩み始めることができました。

もし、この時の開拓伝道がなかったら、私の救いも、今の幸いなクリスチャンホームもなかったことでしょう。その教会で救いにあずかった方たちによって始まった、その後の宣教の働きもなかったかもしれません。主の働きは、最初はどんなに小さくても、神様の大きなご計画の一部であることに気づかされました。

神様は、キリストの福音によって救いにあずかった者たちに、さらに福音を必要としている多くの方々に伝えていく使命を与えられます。福音を伝える働きはクリスチャンにしかできない働きだからです。また、神様は、すべての人が救われて、真理を知るように

なるのを望んでいらっしゃるからです。

37年前、藤沢市の西部開発ということで、かつて畑と荒地と山林であった所が、見る見るうちに大きなベッドタウンに変容していった頃のことを思い出します。

この新しい団地に教会が一つもないことを知って、公園にゴザを敷いて、野外子ども会を行いました。雨の日は傘を差して集まっていました。そうして始まったのが湘南ライフタウンキリスト教会(JECA/日本福音キリスト教会連合)でした。神様は、小さな群れを祝福してくださいました。

その教会が開拓20周年を迎えた頃、何か、神様のみこころがあるように思えて祈り始めました。

そして新年の休暇の時に、神様から一つのことを示されました。それは、マルコの福音書1章38節のみことばです。「さあ、近くにある別の町や村へ行こう。わたしはそこでも福音を伝えよう。そのために、わたしは出て来たのだから」

神様は、教会が教会を生み出していくために、私たちが、信仰をもって一歩踏み出すかどうかを待っていらっしゃるようでした。こうして、現在、私が奉仕させていただいている花の木キリスト教会が始まったのです。

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です」(ピリピ2:13)



Word of Life TOPICS

クリスチャン新聞福音版 12月号の紹介

クリスマスに「最も高価なプレゼント」を届けよう!

今年は何をプレゼントに?

「今年のクリスマスには、あの人に何をプレゼントしようかな」などと、今から考えておられるでしょうか。プレゼントの価値はお金で量れるものではありません。それでも、思いがけなく高価な贈り物をもたらったりするとき、大人も子どもも大喜びします。クリスチャンにとって、これまで自分が頂いたものの中で、何が最も高価ですばらしいプレゼントだったでしょう。もちろん、イエス・キリストの「救い」と答える人がほとんどと思います。

思いがけず2020年は新型コロナウイルス感染症に世界中が翻弄され、国民は行き場のない不安な生活に明け暮れた年となってしまいました。クリスチャンたちも、毎週日曜日、教会堂に集って主を礼拝するのが当然だった生活が乱され、様変わりした信仰生活を余儀なくされました。教会の宣教計画、伝道イベントも、今なお自粛が続いている状態です。

福音版の特徴と使命

そんな中、人々に福音を届ける方法として、クリスチャン新聞福音版(月刊、タブロイド判4頁、1部30円)の活用がお勧めです。活字離れによる定期刊行物の落ち込みがいわれる昨今、キリスト教会も例外ではありませんが、この福音版は毎月、7~8万部が維持され、諸教会・クリスチャンに活用されています。

福音版は、新聞伝道の意識をもった「クリスチャン新聞」から、「新聞タイプのトラクト」というコンセプトで1974年に発刊されました。そのコンセプトは46年を経た今も、変わっていません。

さてクリスマスには、通常号よりはるかに用いられるという12月号のラインナップをのぞいてみます。巻頭ページは、「今月の聖書」としてヨハネ3:16のみことばが掲げられ、伝道メッセージが語られます。「私たちは神から最も高価なプレゼントを受け取っています。永遠の価値を持つ本来のいのち、十字架で死と滅びを打ち破る神のひとり子キリストというかけがえのない贈り物が私たちには必要なことを、神はご存じです」――



福音版 2020年12月号クリスチャン新聞

中面の2~3ページは「名画で読む 聖書の世界」のクリスマス特集をはじめ、「ゆるり聖書散歩」「こころの食卓―英国人のソウルフード」「いやしの言の葉」など心む連載コラムが並びます。

そして、最終面は「ひと―そのあしあと」。12月号では、拉致被害者・横田めぐみさんの母、横田早紀江さんのインタビューが掲載されています。

横田早紀江さんの救いの証し

早紀江さんの証しを引用して紹介します。

めぐみさんが突然いなくなり、悲嘆に打ちひしがれていた時、友人が「ヨブ記を読んでね。苦しみについての話だけど、何かわかるかもしれないから」と言って、置いていった1冊の聖書が、彼女の「救い」への入り口となりました。

「でも長い間(頂いた聖書を)手に取ることもしません

でした。『こんなに分厚い本、こんな時に読めない』と思って。しばらくして他のお友だちが、やはり聖書に書かれているイエスさまと盲目の人の話をし、『今は分からなくても、いつか分かるよね』と慰めてくださったんです。

それで以前教えられた、ヨブ記を読みました。読み出したら一気に読んでしまいました。自分の財産を失い、10人の子どもを失い、自らも病に苦しむという、理不尽極まりない目に遭うヨブという人の話でしたが、『そうなんです、そうなんです、この苦しみなんです』と言いながら読んで、私にぴったりのこの苦しみが、ガンガンと入ってきて、強烈なショックでした。でも読み終わったら、大泣きして思いつめていた気持ちがふわっとなつて、ちょっと緩んで、『こんなふうに人間に関わってくださる神さまがいっぱいいるのだ』と……それから聖書を読むようになったのです」



「ひと—そのあしあと」欄

ヨブは最後にはまた10人の子どもが与えられ、財産も2倍のものが与えられて、神さまから祝福されますが、亡くした子が帰ってきたわけではありません。最初の苦しみが解決したわけでは決していない。それは神さまに委ねるしかないこと。めぐみのこともそうです。本当に元気で帰ってくるか、という気持ちはどこかにありますが、めぐみのことをいちばん気にかけて、見ていてくださるのは神さまなんです。だから平安でいられます。遠く離れていても祈ってますから、この子を生きさせなければ、と神さまが思われるなら、生きされるだろうと信じています」

多くのクリスチャンが、その「救い」を愛する家族や友人、地域の人たちに伝えたいと願っています。でも、すべての人に開かれている救いの福音が、なかなか伝わらない、受け取ってもらえないのも現実です。みことばと、さまざまな人の救いの証しに励まされながら、今日も祈っておられる方が多くいらっしゃると思います。

そのような方々の間で、今回の福音版が豊かに用いられるように願うものです。

「いのちのことば社70年史」を発刊

福音派キリスト教会の戦後史を色濃く反映しながらの歩み

いのちのことば社では、創立70周年を迎えた10月（創立記念日は10月14日）、「いのちのことば社70年史」を発刊しました。1982年に最初の社史を出して以来、実に38年ぶりのことです。

社内に設置された社史編纂委員会が約2年をかけてまとめました。年表、写真集、資料データ集とともに、各部門の立ち上げとその後の歩み、重要な出来事（TEAM 宣教師による文書伝道、新改訳聖書の誕生と著作権問題、法人の独立、本社移転、「新改訳2017」刊行の経過）を記した記録集、OB 職員の証し・エピソードなどで構成されています。また、70年にわたる私たちの働きを自己検証し、総括した「いのちのことば社の源流と将来像」を載せたことも、大きな特色です。B5判オールカラー、96頁の比較的コンパクトな冊子となっています。

創立の1950年から今日までの歩みは、一文書伝道団体の歴史でありながら、戦後建ち上げられた福音派キリスト教会の歴史とすっぽりと重なります。私た

ちが教会の歴史をうんぬんすることは控えなければならず、本書編纂の意図でもありませんが、70年という時代を生きてきた教会を包む霊的空気、精神が問わず語らずに映し出されているのも事実です。この小史が、日本のキリスト教会の戦後史が語られる時、傍証の役割を担うのかもしれない。

最初の社史は1980年代、いのちのことば社の成長期、世が繁栄を謳歌しているような中でまとめられました。しかし今回は、活字離れと福音宣教の停滞を背景に、文書伝道団体としてかつてない試練と戦っている中での発刊となりました。しかし、そこにも主の隠された深い意味、ご計画があったことをいつか知ることになるのでしょうか。今後1年ほどかけて、「70年史」を抜粋して本欄に紹介していきたいと思います。



World Prayer Map
 祈りの世界地図

地図上の数字は6ページの「世界からの祈りのリクエスト」に対応しています



◆海外からの文書伝道レポートを紹介します。

EHC各国の働き
 永遠に変わることのない神に信頼して

不確かな時代の中で、確かなこと
 —EHC国際本部より

スーパーマーケットで誰もがマスクをしている光景を見ることになると、私は想像したことはありませんでした。これまでには考えられなかったことです。

私たちが予期していなかったことといえば、ベルリンの壁の崩壊もそうでしょう。アメリカとソ連の冷戦も40年以上続きました。ソ連では、クリスチャンたちが大きな迫害下に置かれ、アメリカではクリスチャンたちが平和のために祈りました。



私もドイツに飛び、分断された東西のために祈ったことがあります。あの壁が崩壊することなど、ありえないと皆が思っていた

◀ マスクと手袋をしてトラクトを配るスタッフ (ガーナ)

のです。しかし、1989年11月に、テレビで壁がハンマーで打ち砕かれている姿が報じられました。さらに2年後、1991年のクリスマスにはソ連が崩壊したのです。

今、私たちが戦っているコロナウイルスの世界的流行は、大きな困難です。そして、私たちはこれから世界がどのように変わっていくのかも、予想できません。しかし、一つ確かなことはイエス・キリストというお方と、そのお方の働きです。地球規模で何が起ころうと、個人の生活において何があろうと、イエス様は昨日も、今日も、明日も変わることがないのです。いつも私たちを愛してください。そして、いつも私たちを救ってください。命をささげられた福音のために、私たちと共にいつも働いてください。

世界のEHCの証しを紹介し、背後にある皆様の祈りと協力によって、これらの働きが進んでいます。どうぞ続けてお祈りください。変わりゆく世界の中で、変わることのないお方に信頼して歩ませていただきましょう。

「失望せず善を行いましょ。あきらめずに続けければ、時が来て刈り取ることになります」(ガラテヤ6:9)

EHC 国際総裁 ディック・イーストマン

各国の宣教の証し



● アルバニア

EHC アルバニアのディレクターであるアキル・パノは、ソーシャルメディアを活用して、神様のことを分かち合っています。また、EHC チームは聖書を多くの人たちに配布しました。聖書を配布する夢が実現したのです。聖書を受け取った時の人々の喜びは表現できないほどだと、チームのメンバーは語っています。また、地域教会とも連携し、多くの地域で一軒ずつ家庭を訪問し、福音文書と共に食糧を配布しています。



● コートジボワール

コロナウイルスの感染拡大によって、思わぬところで伝道の門戸が開かれました。以前は宣教を禁止していた学校が、EHC チームの訪問を歓迎してくれたのです。チームは福音と一緒に、食糧、生活必需品をこの学校へ届けています。夫を亡くした女性や子どもたちにも同様に配布し、結果として120人がイエス様の愛の福音を聞きました。



● ギニアビサウ

EHCチームは3つの教会と協力し、サフィン・レイノ地区にマスクや衛生用品、そして福音文書を配布しました。マスクには「イエス様が人生の泉です」ということがプリントされています。コロナウイルスが流行する中で、このような働きは地域に大きな影響を与えています。



● サモア

政府が自宅待機を命じ、人々は従わないと罰金を課されました。サモアのEHCチームは国の保健省と連携し、感染予防のための衛生用品を配布しています。これを通してEHCチームは各家庭を訪問し、イエス様のことを話す機会が与えられました。神様が道を開いてくださったことを感謝します。



コロナウイルスの世界的流行で、宣教の働きが低迷したと思われることでしょう。しかし、現実はそうではありません。福音に反応した人々は、昨年比で3%増加したのです。今、この特別な時を最善に用いていきましょう。

(国際 EHC 機関紙「Every Home」2020年9月号より)

会計報告 (2020年8月分)

7月末累計収支	1,973,138 円	○支出○	
○収入○		・印刷費	437,208 円
・献金 (国内)	2,084,732 円	・頒布活動費	1,423,041 円
・日本 EHC	1,878,232 円	・事務局費	588,567 円
・ Gospel for Japan	206,500 円	(人件費、光熱費等含)	
・献金 (海外)	152,900 円	支出合計	2,448,816 円
・会費	39,750 円		
・トラクト頒布収入	166,038 円	収支差額	-5,396 円
収入合計 (A)	2,443,420 円	8月末累計収支	1,967,742 円

目標献金額と達成状況

目標献金額	毎月 500,000 円
2020年7月～8月	4,890,372 円

トラクト頒布数

2020年7月～8月	(総頒布数累計) 27,473部
------------	------------------

EHC (全国家庭文書伝道協会)

〒164-0001 東京都中野区中野 2-1-5 <https://www.wlpm.or.jp/ehc/>
Tel.03-5341-6930 Fax.03-5341-6912 E-mail ehc@wlpm.or.jp

郵便振替●00130-5-68644

口座番号●ゆうちょ銀行 019店 当座0068644

EHC 祈りの会●年会費2,000円

(総人口/クリスチャン比率)

2020. 世界からの祈りのリクエスト

11

November

CG (クライスト・グループ) = トラクト配布によって生まれた求道者、決心者の集まり。BCC = 聖書通信講座。トラクト反応者をフォローアップしている。A国、B国 = 迫害下にあるため、国名を公表できない国を表す。BFAM = "Be Fruitful and Multiply" (創世記 1:28) の略。信仰をもったばかりの信徒を対象にした訓練講座を表す。

3(火)、4(水)

A国のために

Aさんは、以前イスラム教徒だった人たちのグループに弟子訓練をするという大変な働きを始めようとしています。聖書の真理を正しく紹介できますように。また学ぶ人たちにも霊的な成熟と洞察力が与えられますように。

5(木)、6(金)

1,970万人/10.2%

ブルキナファソのために — Map②

毎週のようにテロが起きています。子どもたちが誘拐されたり、殺されたりしています。神様のご介入があり、この国が悪から守られるようにお祈りください。神様の守りにより、教会が強められ、守られますように。

1(日)、2(月)

340万人/4.6%

モルドバのために

Map①

レジナ県のチニシェウツィ、エキマウツィ、イグナツェイ、メシェニの村々で戸別配布を企画しています。人々の心が開かれ、福音を受け入れることができますように。訪問する開拓宣教者たちに、神の恵み、守り、力が与えられますように。

7(土)、8(日)

820万人/3.9%

スイスのために

Map③

「希望の物語」という福音的な新聞を作りました。個人の証しとともに福音のメッセージも入っており、67,000 家庭に配布しました。受け取った人たちの心が動かされるようにお祈りください。

9(月)、10(火)

B国のために

この国ではコロナ禍のさなかで、福音が速やかに広がっています。多くの人々がオンライン、電話、実際に会って話すという方法で信仰に導かれています。救われたばかりの人の信仰が成長し、神様が彼らの生涯に強く働いてくださるようお祈りください。

11(水)、12(木)

1,640万人/25.1%

ザンビアのために

Map④

西地区の首都、モンゴでは、最近 219 人がイエス様を信じました。彼らのために教会が与えられ、霊的に成長できるようにお祈りください。さらに、EHC によるトラクト配布の継続に伴って、多くの人々が信仰に入ることができますよう、お祈りください。

13(金)、14(土)

610万人/0.6%

レバノンのために

Map⑤

ベイルートでは 8 月に起きた爆発事故からの復旧が続いています。この悲惨な出来事を通して、人々が教会に導かれています。EHC チームは多くの人と共に祈り、数人がイエス様を受け入れました。神様に慰めと恵みを見いだす人がさらに起こされますように。

15(日)、16(月)

60万人/0.2%

モンテネグロのために

Map⑥

EHC の開拓宣教者であるアンドリヤと妻のサンドラが近くイスラム教徒のコミュニティーを訪問し、福音を伝えます。神様の守りと豊かな実りがありますように。訪問した家の人たちに勇気が与えられ、イエス様の真理を見いだすことができますように。

17(火)、18(水)

1,180万人/0.6%

ギニアのために

Map⑦

政府の高官が EHC によるラジオの福音番組を聞き、イスラム教はもう信じないと決心しました。今、彼はイエス様の真理を求めています。どうぞ、真理が彼の心に届き、同時に多くのイスラム教徒の方たちの心が開かれますようにお祈りください。

19(木)、20(金)

129,680万人/2.2%

インドのために

Map⑧

ある男性は、福音文書を通して家族全員と信仰に導かれました。EHC の開拓宣教者によるフォローアップで、神様の愛を深く理解したと語っています。このような宣教の実りのゆえに、神様をほめたたえます。

21(土)、22(日)

700万人/1.9%

ブルガリアのために

Map⑨

ヴァルナ地区にある 24 の村々を開拓宣教者たちが訪問します。健康が支えられ、守りと祝福があるようお祈りください。彼らに出会う人たちの心が開かれ、まことの福音を受け入れることができますように。

23(月)、24(火)

14,210万人/1.4%

ロシアのために

Map⑩

2 人の開拓宣教者が、ブリヤード族に向けて伝道します。彼ら 2 人はブリヤード族ではないため、伝道が困難です。神様がこの働きを導き、多くの収穫が与えられるように、どうぞお祈りください。

25(水)、26(木)

C国のために

イスラム教徒がクリスチャンになると、多くの困難、迫害に直面します。そのような人たちを神様が教会に導き、神のことばによって成長し、大きな試練の中でも多くの実を結ぶことができますように。

27(金)、28(土)

1,130万人/7.4%

ベナンのために

Map⑪

キリスト教について知りたいという数名の人たちと連絡をとっています。彼らの名前は、デローリー、エリック、ラザール、チャドリー、そしてリングです。聖霊が彼らの心に触れ、真の福音を見いだすことができますように、お祈りください。

29(日)、30(月)

12,710万人/0.5%※

(※プロテスタントのみ)

日本のために

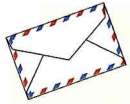
Map⑫

クリスマスの前に配布されるトラクトを通して、一人でも多くの方が福音を知り、この機会に教会へと導かれますように。また、実施中の EHC 日本のおイコス計画、支援している EHC モンゴル、EHC ベトナムの働きのためにお祈りください。

EHC日本が支援中

EHCベトナムのジョセフ総主事から
2台目のバイク贈呈への感謝と宣教計画が届きました!

本誌8月号でレポートした、EHCベトナム宣教活動のためのオートバイの必要に対して、皆様からの献金が集まり、2台目分として30万円をベトナムに送金しました。早速、ジョセフ総主事からメールが届きましたので紹介します。



EHC 日本 の祈りのメンバーの皆様へ

このたびは、2台目のオートバイのための献金を送金くださり感謝します。早速、HONDA オートバイの販売店舗に行ったところ、今回はなんとお送りいただいた30万円で2台購入できることがわかりました。私たちの主なる神様と、日本の主にある友人の皆様へ、重ねて感謝を申し上げます。

この2台は、クチ県での宣教に用いさせていただきます。「クチ」とはベトナム語の呼び方で、現地に古くからあるモンクメール言語では「トンレ・スレ」または「スレ」と呼ばれ、「水田の川」を意味します。この地域は、ベトナム戦争中にベトコンの本部として造られた地下道「クチトンネル」で有名です。1967年以降のベトナム戦争中には、アメリカ軍の第269団空軍基地が設置され、現在は工業地域として知られています。人口は2010年時点で46万1,840人。土地の広さは435平方キロメートルあり、中心となる町はクチタウンと呼ばれています。



現在、クチ県では9名の献身者と6名のボランティアスタッフが奉仕しています。2019年には4つのクライスト・グループ（決心者・求道者の集まり）と、6つの教会ができました。



スタッフはこの地域に住み、すべての地域をカバーしたいと願っています。同時に、隣接するタイニン省にも伝道したいと祈っています。

タイニン省に9つの宗教があります。人口116万9,165人のうち、約半数の41万5,920人がカオダイ教を信仰し、カトリックは4万5,992人、仏教は3万8,336人、イスラム教などが3,337人、プロテスタントは684人、平和主義仏教が236人です。このような中で私たちは、友人、隣人と協力しながら伝道しています。

これからの目標は、さらに5つのクライスト・グループを作ること、新しい教会を2つ建設することです。購入した2台の新しいバイクを用いて、このクチ県とタイニン省に福音を伝えたいと願っています。日本の皆様のご協力を感謝します。

EHC ベトナム ジョセフ

【献金のお振込先】

EHC（全国家庭文書伝道協会）

郵便振替●00130-5-68644

口座番号●ゆうちょ銀行 019店 当座 0068644

※「ベトナムのため」とご記入ください

EHC日本は、EHCベトナムの宣教の働きのための献金の窓口になっています。ご支援くださる方は、EHC日本の口座（右記）へご送金ください。



信仰・希望・愛

アガペクリニック

院長 伊藤 志門
愛知県日進市折戸町

アガペクリニック

検索

安西法律事務所

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたに望んでおられることです。

Iテサロニケ5:16~18

サラン翻訳工房

韓国語⇔日本語

得意分野は信仰書です。お気軽にお問合せください。

翻訳依頼&問い合わせ lovejapan21@gmail.com



いのちのことは社の働きにご支援ありがとうございます

感謝をもって報告させていただきます

献金者ご芳名

◆いのちのことは社のミニストリーのため

(2020年8月1日~8月31日受付分)

ご指定いただいたミニストリーに用いさせていただきます。
(愛のプリズム伝道、EHC、いのちのことは社の働き、いのちのことは社 70 周年、いのちのことは社本部ビル、恵みシャレー軽井沢、ゴスペルボックス、子ども宣教室、CS 成長センター、スーパーブックプロジェクト、オアシス仙台店、福音点字情報センター)

<教会・団体> 30 件

安西法律事務所 イエス・キリスト聖成伝道教会 インマヌエル姫路キリスト教会 浦和福音自由教会 エデン福音伝道団久我山宣教会 おゆみ野キリスト教会 亀有キリスト福音教会 木山キリスト教会 さんだグレイスチャペル 湘南のぞみキリスト教会 新鎌ヶ谷聖書教会 聖書キリスト教会中野ジョイフル教会 聖泉キリスト教会 聖和会 新井教会 TLCCC 十日町教会 東栄福音キリスト教会 豊田キリスト教会 東大宮福音自由教会 根本教会 平塚福音キリスト教会 広島瀬野川キリスト教会 福岡ハーベスト・チャーチ 北海道キリスト教会 本郷台キリスト教会 前橋キリスト教会 みどり野キリスト教会 山崎製パン株式会社飯島幹雄 横田早紀江さんを囲む祈り会 横浜シオンキリスト教会 横浜キリスト教会

<個人> 220 件

仰陽子 青島恒宣 青柳芳明 秋元憲子 安達加津子 阿部恵美子 雨宮佳代 安西愈 安楽弘子 井置浩三 井草清勝 生駒桂子 石井きよ子 石川登喜子 石原仁美 伊藤篤夫 伊藤玉恵 今井佳代 入江昭 岩井清 岩崎知子 植村美千代 内田浩美 宇野喜代子 梅野友起子 榎本千代乃 遠藤誠一 老松富美子 オオイムツオ 大賀勝範 大鹿富江 大下美保 大谷永子 大長寿恵 大橋康子 大浜亜紀 尾形涼子 小澤敦子 小澤忠五郎 尾関トキエ 小野田好子 小山田格 影山範文 笠井一之 梶山耕平 河東田俊明 門馬正衛・和栄 金井塚富恵 鎌田真智子 神尾鋼行 河内常男・宣子 川上初恵 川北かおり 喜久山勝代 北川浩敏 北中芳樹 木塚和子 木庭功 木下弘子 木原しげ子 木村俊彦 金野彌一 久保田君代 窪田美都子 久保田哲也 黒澤淳 濃川彰子 後藤治久 小林ひとみ 小松満 斎藤真紀子 斎藤賢一 桜井純子 桜木ひろ子 佐々木由貴子 佐々木禮子 佐藤毅 佐藤知津子 品田八重子 品田与志夫 清水勇次 下釜信子 新川和枝 菅原安子 鈴木里可 須藤昇 関貫造・偉子 高橋桂子 田上守 田口果穂 武井浩司・敦子 竹内真理 多田均 伊達裕子 田中晶矩 田中悦子 田中淑子 田中美佐子 田中泰子 田村水比古・頼子 丹洋洋子 辻本文子 土屋翠子 堤恵次 坪根宏子 鶴木悠紀子 十河聖子 徳永洋子 友田重信 豊島杏 中島識子 中島廣則 中田勝康 中田年子 長畑美・小道 中林啓子 中村秀孝 中山香織 永吉正代 奈良美涼 西片由美子 西原順子 西宮幸治 西村武男 西村ゆか 蛭川いづみ 野口誠 畠中芳子 花形永愛 浜武靖子 張江誠 平井紀子 平賀眞佐子 平川登美子 平手至 廣岡征子 廣瀬久美子 夫博美 福原裕子 藤井雅子 藤井美津子 藤田利江 藤村徹 古川修 古木勲 文宗雄・有子 ホーバード豊子 堀内秀夫 町田君代 町田恵子 町田恵 松井繁 松田茂子 眞中静子 三品忠之 水口洋 見田村裕裕 南清美 美野川芳枝 宮城よし子 宮島祥男 宮永和法 宮脇星児 迎陽子 麦島秀雄・いく子 村井あつ子 村田充子 茂木幸雄 森明夫・律子 森下晶子 安田吉三郎 谷部栄子 山内真澄 山岡朱美 山口三治 山崎恵子 山崎伸子 山下雅紀・ミサ子 山下章子 山瀬博士 山田充広・称子 山本博愛・恭代 柚之原寛 吉里由紀子 吉村義信 米田康子 劉芽久美 和氣勝枝 和多芳子 渡辺久美子 渡辺幸子 渡辺太一 渡辺つたえ 渡辺ヒサ子 匿名 (26 件)

<敬称略・五十音順>

いのちのことは社直営店についてのお知らせ

オアシス名古屋店の開店と オアシス新宿西口店のお茶の水への移転

いのちのことは社

このたび、いのちのことは社では、「クリスチャン文書伝道団」(CLC)より12月末での解散の報を受け、同伝道団の書店であった名古屋店、お茶の水店の運営を、いのちのことは社が継承することとなりました。CLCとは宣教協約を結び、これまで同じ志をもってともに文書伝道を進めてまいりました。

つきましては、以下の日程と名称でCLCからキリスト教専門書店を受け継ぎます。また、併せて「オアシス新宿西口店」をお茶の水に移転し、「オアシスお茶の水店」とすることにいたしました。

今後とも、お祈りと共に、ご利用のほどよろしくお願いたします。

在 主

■CLCブックス名古屋書店(名古屋市中区金山2-1-3 金山クリスチャンセンター 2F)は、10月10日(土)で閉店となりました。

→11月2日(月)より、同じ場所で「オアシス名古屋店」(Tel:03-6855-8811)として営業します。

■オアシス新宿西口店(東京都新宿区西新宿1-3-15 栃木ビル6F)は12月25日まで営業し、その後お茶の水に移転します。

→2021年1月5日より「オアシスお茶の水店」(東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル2階 Tel:03-6855-8811)として営業します。

→CLCブックスお茶の水書店(Tel:03-3294-0775)は、11月末日まで営業し閉店となります。

→2021年1月5日~1月末日まで「大・古書セール」を旧オアシス新宿西口店の店舗(東京都新宿区西新宿1-3-15 栃木ビル6F)で実施します。

[発行]いのちのことは社 〒164-0001 東京都中野区中野2-1-5 [発行人]岩本信一
Tel.03-5341-6911(代) Fax.03-5341-6912 E-mail.mpartner@wlpn.or.jp
郵便振替 00170-8-10387 名義:いのちのことは社宣教団
※備考欄にそれぞれの支援先名をお書きくださると幸いです。

最新情報はいのちのことは社のHPにも掲載されています。

<https://www.wlpn.or.jp/>